

タイトル		森林環境教育～間伐材が地球温暖化を救う～
プログラム概要		
人数	100～300人程度	
場所	体育館、視聴覚室、大教室、フリーペースほか	
ねらい	講義	人工林は木を大きく育てるときに、周りの木を育てることを学ぶ。また、木は成長するときに二酸化炭素を吸ってくれることを学ぶ。
	ワークショップ	間伐材を用いた工作を通じて、木に触れること、香りをかぐこと、自由な発想でものづくりを楽しむことで、講義で学んだことを含めて記憶に残す。
所要時間	講義	小学校低学年:20分程度 小学校中学年～:45分程度
	ワークショップ	小学校低学年:45分程度 小学校中学年～:60分程度
活用例	小学校低学年	「食と森の関係」
	小学校4年生	「水源林について」
	小学校5年生	「森林について」
	小学校6年生	「環境について」
進め方	導入(5～15分) 森林と海のつながり	森林と海は川でつながっていますが、食べ物を通してみるとそのことがよくわかります。海の食べ物はお寿司で考えます。森林の栄養が無いとプランクトンは育たず、魚が取れなくなります。大地からは野菜が取れます。動物が育ちます。その大元は森林の栄養であることを学びます。「森林が元気だと生き物たちも元気ですが、今の日本の森林はどうでしょう?」と問いかけます
	講義(20～30分) 日本の森林の育て方	問いかけに対して、多くの生徒は元気でないと答えます。その理由を聞くと「木を切っているから、ゴミを捨てているから、地球温暖化があるから、二酸化炭素がたくさんでいるから…」といったものです。それに対して、「そのことは本当かな?」と言うと、答えは返ってきません。そこで、森林の育て方を伝えます。木は成長するときにたくさんの二酸化炭素を吸収すること、込み合った森林は二酸化炭素を吸収できないこと、木は苦しむと花粉を出すこと、そして、木を大きく成長させるには周りの木を切ること(＝間伐)が必要だということを学びます。人工林は人が木を伐り、手入れしていく事が必要だと分かります。  ※木の育て方の説明の際、5人の生徒に協力を仰ぎ、生徒を木に見立てて生長の過程を表現します。
	ワークショップ(45～60分)	間伐の重要性がわかった上で、間伐材を用いたワークショップを行います。工作の基本は、与えられた素材を活かし、オリジナルの作品を作ることにあります。
評価のポイント	間伐の重要性を理解しているかがポイントになります。それを知る方法として、木の育て方を説明する前と後に「日本の木を伐っても良いか」と聞きます。1回目の質問では多くの生徒が「伐ってはいけない」と答えます。しかし、2回目に質問をしたときに「伐ってはいけない」と答えた生徒がいた場合、その生徒には間伐の重要性がうまく伝わっていないということを意味します。	
発展・応用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑のダムの原理を知るための実験も実施できます。</li> <li>・水源林などの体験学習の事前学習として活用いただけます。</li> <li>・身近な公園の調査と森林を比較することもできます。</li> </ul>	